

小（中）学校 総合的な学習の時間 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校P63~71

総合的な学習の時間 事例3

キーワード「思考・判断・表現」の評価、児童の学習の姿と見取り

単元名

「川の水の美しさを取り戻そう」第4学年

内容のまとめ

「環境」（全70時間）



1. 単元の目標

住吉川の環境について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、環境保全に関する具体的な取組について考え、環境を守る活動を続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p style="text-align: center;">評 価 規 準</p>	<p>①住吉川の環境には、独自の特徴があることを理解するとともに、その環境を後世に残していこうと活動を行っている人や組織の存在、思いに気付いている。</p> <p>②住吉川にすむ生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。</p> <p>③住吉川の環境と自分たちの生活には関連があることの理解は、川とそこに生息する生き物との関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①住吉川の上流と中・下流の様子と比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらいフィールドワークの計画を立てている。</p> <p>②住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。</p> <p>③住吉川の環境を守る活動を進めるために、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な活動を決定している。</p> <p>④川の環境保全に向けた自分の考えを、表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>①住吉川とそこに住む生物の関係を明らかにするという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <p>②自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。</p> <p>③自分と川や地域の人々等とのつながりに気づき、地域の活動に参加するとともに、地域のためにできることを考え行動している。</p>

3 指導と評価計画 (70時間)

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 住吉川の様子をさぐる。(15)	<ul style="list-style-type: none"> 川の中流, 下流, 上流のそれぞれを探検し, それぞれの特徴をまとめる。 ホタルがいる上流の様子と, 油や泡, ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。 			①	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 記録シート
	<ul style="list-style-type: none"> 比較から生じたギャップから問題状況を捉え, 「川の美しさを取り戻そう」という単元を通じた課題を設定する。 <p style="text-align: center;">具体的事例①「思考・判断・表現①」</p>		①		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 課題カード
2 住吉川の美しさを取り戻すための活動を考えて実行しよう。(35)	<ul style="list-style-type: none"> 川の美しさを取り戻すための活動を進めるために, 川の調査や周辺住民へのインタビューから必要な情報を集める。 <p style="text-align: center;">具体的事例②「思考・判断・表現②」</p>	②	②		<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 調査シート
	<ul style="list-style-type: none"> 川の環境を守る取組を進めている「ホタルを増やす会」の人の話を聞く。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 調査したことや聞いたこと等を整理して, 川の美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。 <p style="text-align: center;">具体的事例③「思考・判断・表現③」</p>		③		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 表現物
3 地域とともに活動を行い, これからの自分たちの行動について考えよう。(20)	<ul style="list-style-type: none"> 川の水の美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。 			②	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 取組カード
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人や組織が住吉川の環境保全に関わっていることを振り返る。 	①			<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 振り返りカード
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人に川への関心を高めてもらうための活動を企画する。 			③	<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でできる川を汚さない方法を伝える, 川掃除会を開催する, 「ホタルを増やす会」の活動に参加するなど, 実行に向けた準備を進める。 <p style="text-align: center;">具体的事例④「思考・判断・表現④」</p>		④		<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> 今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて, これまでの活動を振り返ってまとめる。 	③			<ul style="list-style-type: none"> 発言内容 作文カード

4 「思考・判断・表現」の評価 具体事例①

①評価の場面

地域の住吉川を探検する体験活動を通して、子供たちが川の問題状況を把握し、そこでの気づきを出し合い共有する中で、自分たちが解決を目指す課題をつくり出すことをねらった場面である。

②学習活動における児童の姿と評価の結果 【評価規準「思考・判断・表現①」】

住吉川の上流と中・下流の様子と比較から、河川の状況と生物との関わりについて課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。

4 「思考・判断・表現」の評価

課題カードの記述より

【A児の課題カードの記述】

住吉川のそばを歩いていると、油がういていたり、まわりにゴミが落ちていたりしていて、よごれていることが分かりました。別の日に、家の人や友達、先生といっしょに川の上流に行ってみました。すると、たくさんのホタルが飛んでいました。そこにはホタルのほかにもいろいろな生き物がいました。川の上の方にだけホタルがいたので、ホタルはどんなどころに住んでいるのだらうと思いました。

A児は、住吉川の探検を通して川が汚れている状況を捉えている。

さらに、川の上流ではホタルが見られたことから、生き物の存在をもとに川の状態の違いを捉えている。川やホタルの様子について興味をもち始めた段階ではあるが、「河川の状態と生物との関わりについて課題をつくりだした」段階には至っていない。A児同様、多くの子供たちが、中流や下流では見られないホタルが上流でのみ見られることに気付いている状況があったことから、ホタルの生態について調べることにした。

4 「思考・判断・表現」の評価

振り返り（課題カード）からの評価

【ホタルの生態について調べたA児の振り返り（課題カード）】

ぼくたちはホタルが住む場所や食べ物などについて調べました。ホタルの幼虫はカワニナを食べます。このカワニナがきれいな川の底に住んでいることがわかりました。たんけんした川の近くに、川をきれいにする活動をしている人たちがいることがわかる看板がありました。また、「ホタルを増やす会」があることもわかりました。ぼくも、ホタルをもっと増やすことができるように、よごれている今の住吉川を自分たちの力できれいにするためにできることをやってみたい、と思いました。そのためには、ホタルが住んでいる場所とそうでない場所の違いをもっとくわしく調べなくてはなりません。ぼくは、えさになるカワニナが住んでいる場所の水温や川底の様子について調べると、ホタルとの関係が分かると思うので、調べようと思います。

A児は、体験活動での気付きと、ホタルについて調べたことやホタルを増やす活動に取り組む大人の存在等を知ったことを関連付け、「ホタルをもっと増やすことができるように、汚れている川を自分たちの力できれいにしたい」という思いをもった。このような思いの実現に向け、振り返りには、ホタルのえさとなるカワニナの生息状況を調べることで、河川と生物との関係を明らかにしようと思通している。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

4 「思考・判断・表現」の評価 具体事例②

①評価の場面

児童は、住吉川に関する必要な情報を、観察、実験、見学、調査、探索、追体験等を行い収集する。その際、情報収集の手段を児童自ら選択したり、課題解決のために必要な情報を収集し蓄積したりするなどの姿が期待される。

②学習活動における児童の姿と評価の結果 【評価規準「思考・判断・表現②」】

住吉川の現状をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた適切な方法で収集している。

4 「思考・判断・表現」の評価

具体事例②の場面

「水や川の周辺の汚れとその程度」
「周辺住民の関心」「今までの取組」を調べることを確認し、そのための方法を話し合うことにした。



A児：汚れている原因を調べるためには、川の様子を見に行かなきゃいけないと思う。特に、油や泡が浮いている原因は分からないから、近くの人に聞いてみたらいいと思います。

B児：Aさんに付け足しで、ゴミや油は見てすぐわかるけど、水が汚れているかどうかは見ただけじゃ分からない。どうやって調べたらいいのかな。

C児：水の汚れを調べる方法を調べてみたらいいと思うよ。

B児：なるほど。理科の先生に聞いてみよう。

D児：さっき、Aさんが「近くの人に聞いてみたらいい」って言ったけど、油や泡が浮いている原因とあわせて、川が汚れていることをどう思うかも一緒に聞いてみたらどうだろう。

E児：川の探検にいったときに、川をきれいにしている活動をしている人たちが作った看板があったでしょ。「ホテルを増やす会」もあるから、そのことを知っていますかって近くの人たちに聞いてみるのもいいかも。それから、「ホテルを増やす会」の人たちが、今までにどんなことをしてきたのかについて、会って直接聞いてみたらいいと思います。



対話の内容から、子供たちは「川をきれいにするための活動を進めるために川の様子を再度調べる」という目的に照らして、「調べる内容」と「対象」に応じた「方法」を考えていることがうかがえる。情報収集の方法を自ら選択することが、自覚的な情報収集につながることになる。

このような活動になるまでの教師の発問と
児童のやり取りは、「『指導と評価の一体化』のための
学習評価に関する参考資料 小学校」p 65～67を参考にしてください

4 「思考・判断・表現」の評価

調査シートからの評価

【B児の調査シート】

自分たちで調べる内容とやり方を決めて、川の様子を調べました。川の水をパックテストで調べたり、川の様子を何度も見学したり、「ホテルを増やす会」のIさんにお話を聞いたりしました。パックテストで、川がよごれる原因が分かりました。おどろいたのは、自分たちの家から出る生活はい水が川をよごす大きな原因になっているということです。ということは、家から出る水をきれいにするというか、よごれた水を出さないようにすればいいんじゃないかと思いました。また、川の中や周りにゴミが多いのは、ポイすてしているからと考えました。生活はい水について調べてみたいと思ったし、自分の家でできることもあると思うので、家庭の中のことをもっと調べたいと思いました。Iさんにインタビューしてみて、住吉川がよごれていることやホテルがいることがあまり知られていなかったことにもおどろきました。だから、地いきの人たちにもこのことを知らせたり、一緒に活動したりするほうがいいと思いました。

B児は、一連の情報収集活動から川の現状を捉えるとともに、川が汚れる原因を見だし考察している。「汚れている川をきれいにするため」には、「自分たちの家から出る生活排水」を見直す必要があると考え、家庭における生活排水について詳しく調べることや、地域の人にも知らせるといった活動の方向性についても言及している。このような一連の学習過程を見通した振り返りの記述から、評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができる。

5 評価方法

【B児の調査シート】

自分たちで調べる内容とやり方を決めて、川の様子を調べました。川の水をパックテストで調べたり、川の様子を何度も見学したり、「ホタルを増やす会」のIさんにお話を聞いたりしました。パックテストで、川がよごれる原因が分かりました。おどろいたのは、自分たちの家から出る生活はい水が川をよごす大きな原因になっているということです。ということは、家から出る水をきれいにするというか、よごれた水を出さないようにすればいいんじゃないかと思いました。また、川の中や周りにゴミが多いのは、ポイ捨てしているからと考えました。生活はい水について調べてみたいと思ったし、自分の家でできることもあると思うので、家庭の中のことをもっと調べたいと思いました。Iさんにインタビューしてみて、住吉川がよごれていることやホタルがいることがあまり知られていなかったことにもおどろきました。だから、地いきの人たちにもこのことを知らせたり、一緒に活動したりするほうがいいと思いました。

【ホタルの生態について調べたA児の振り返り（課題カード）】

ぼくたちはホタルが住む場所や食べ物などについて調べました。ホタルの幼虫はカワニナを食べます。このカワニナがきれいな川の底に住んでいることがわかりました。たんけんした川の近くに、川をきれいにしている活動をしている人たちがいることがわかる看板がありました。また、「ホタルを増やす会」があることもわかりました。ぼくも、ホタルをもっと増やすことができるように、よごれている今の住吉川を自分たちの力できれいにするためにできることをやってみよう、と思いました。そのためには、ホタルが住んでいる場所とそうでない場所の違いをもっとくわしく調べなくてはなりません。ぼくは、えさになるカワニナが住んでいる場所の水温や川底の様子について調べると、ホタルとの関係が分かると思うので、調べようと思います。

川について調べたこと	方法	結果	結果から考えたこと	できそうなこと
水のごれぐあい	水のごれを音調べる方法を理科の先生やインターネットでさがす	生活はい水の数値が大きい	家から出る水が川をよごしている?	のりものなごみをながさない 油やせんごいをながさない ホスターを作てくはる
川の中や川のまわりのようす	川の中に入る! 川のまわりのようすを見学する	川の中やまわりはたくさんのおゴミが落ちていた おれのところはなんだかさかた	おかしなふくろやペットボトル、空き缶などごみでまわっている。ポイ捨てが多	ごみをみつけたらひろう ポイ捨てしない 川の近くにはゴミばこを置く ゴミひろい大会をする
川のまわりの人が川のごれや上流にホタルがいることどう思う。というか	まわりの人たちにインタビューする	どうも気づかない人がたくさんいた よごれているのは、知っているけど気づいていない人を見た	川がよごれていても気づかないよごれていることに気づいていない人がおもしろい	いっしょにホタルを見に行くつれていく よごれやゴミのようすをみせよう
ホタルを増やす会や川をきれいにする活動をしている人たちがどんなことをしているか	増やす会の会長さんに話を聞く インターネットや市の資料で音調べる	増やす会ではホタルのようすをほうりゅうしている EMたんごを作っている そうじをしている 川の水を田んぼに流してはいる	ホタルをふやして、おんなによるこんでまらうと思ている 田んぼに川の水を流しているのはなぜ?	EMたんごをいっしょに作る 作り方をあつうの人に教える

【表1】C児のワークシート

内容	方法	結果	考察
ホタルの生態	理科の本やインターネットで調べた	カワニナを食べる	きれいな川に住んでいる
川の中やまわりの様子	川の中に入る、見学	ゴミが落ちていた	生活はい水が原因
川のまわりの人の様子	インタビュー	気づいていない人が多い	啓発活動が必要
増やす会の活動	インタビュー、資料調べ	EMたんご作り、そうじ	水質改善に効果的

【資料1】調べた内容・方法・結果・考察をまとめた一覧



写真3】チラシ、ポスターの比較と内容の検討

5 評価方法

児童・生徒の成長を多面的に捉えるために

参考



多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせることが重要である。

例えば、発表やプレゼンテーションなどの表現による評価

話合い、学習や活動状況などの観察による評価

レポート、ワークシート、ノート作文、論文、絵などの制作物による評価

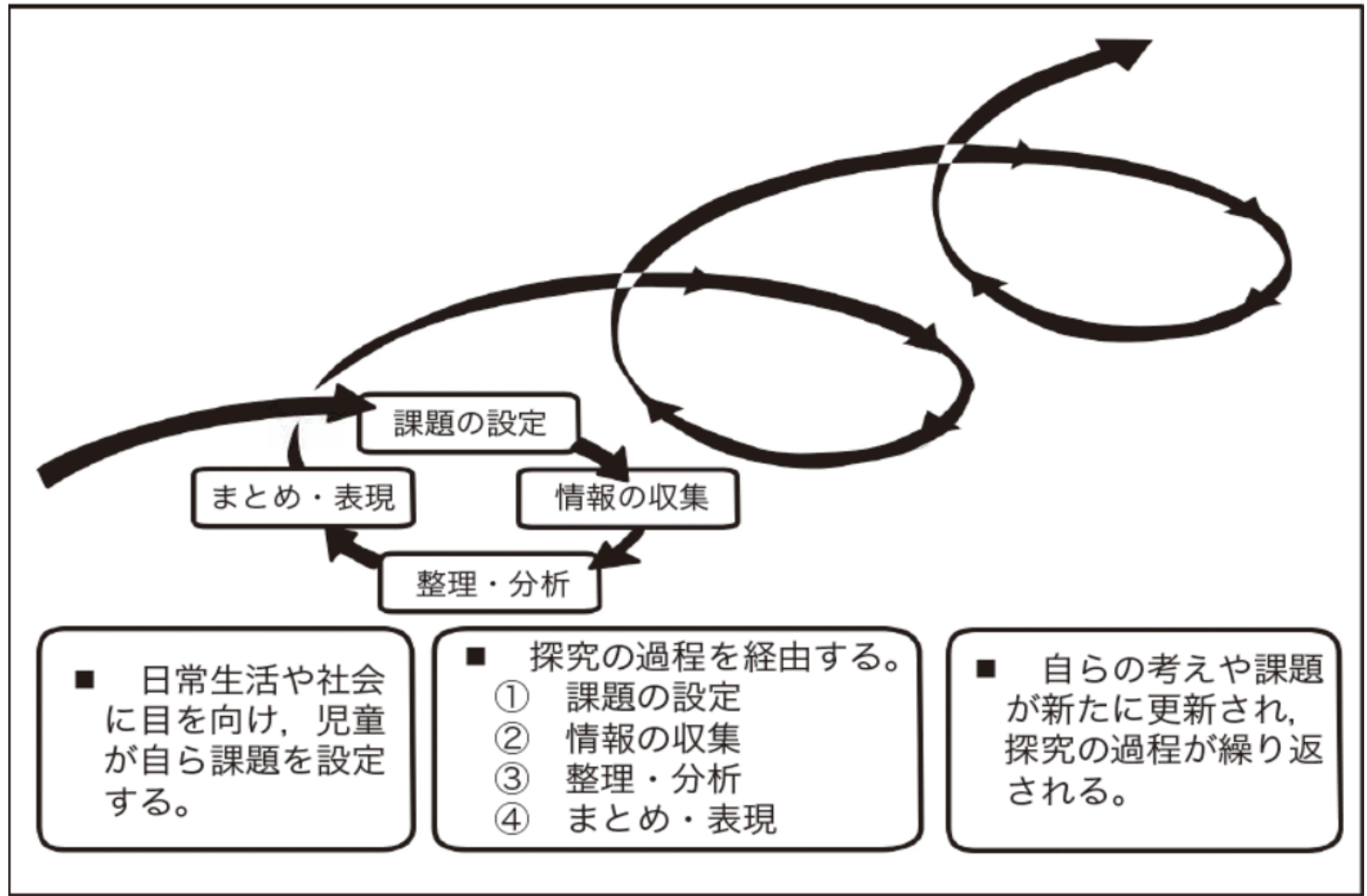
ポートフォリオを活用した評価

評価カードや学習記録などによる児童・生徒の自己評価や相互評価

教師や地域の人々等による他者評価 など

探究的な学習における児童・生徒の学習の姿

参考



探究的な学習とは、物事の本質を見極めようとする一連の知的営みのことである。

探究的な学習で見いだすことができる児童・生徒の姿

- ・ 事象を捉える感性や問題意識が揺さぶられて、学習活動への取組が真剣になる
- ・ 身に付けた知識及び技能を活用し、その有用性を実感する。
- ・ 見方が広がったことを喜び、更なる学習への意欲を高める。
- ・ 概念が具体性を増して理解が深まる。
- ・ 学んだことと自己を結び付けて、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする。「文部科学省 小・中学校学習指導要領解説」より抜粋